

表 サクラソウ群落と出現する植物の状況

田島ヶ原 (00.4.17調査)			佐久市 (99.6.1調査)		
出現植物	被度	高さ	出現植物	被度	高さ
サクラソウ	34%	14cm	サクラソウ	59%	16cm
オギ	29%	17cm	カメバヒキオコシ	13%	31cm
アマナ	16%	7cm	チダケサシ	12%	29cm
ノウルシ	2%	17cm	ウマノアシガタ	11%	6cm
ノカラムツ	2%	7cm	イラクサ	9%	8cm
ヤエムグラ	2%	3cm	コバギボウシ	6%	19cm
スギナ	1%	17cm	コクサギ	6%	24cm
ヨシ	1%	15cm	カキドオシ	5%	21cm
ヤブガラシ	+	5cm	キツリフネ	5%	18cm
			ノコギリソウ	5%	31cm
			ミソソバ	5%	25cm
			サラシナショウマ	5%	29cm
			ノハラアザミ	3%	17cm
			ヨモギ	3%	23cm
			コシロネ	3%	22cm
			ツボスミレ	2%	20cm
			コンロンソウ	2%	30cm
			ヤマゼリ	2%	27cm
			チガヤ	2%	44cm
			カラコギカエデ	2%	27cm
			トボシガラ	2%	34cm
			ノダケ	2%	27cm
			ヤマブキ	1%	20cm
			スイカズラ	1%	21cm
			ヒメシダ	1%	10cm
			ユウガク	1%	18cm
			スギナ	1%	15cm
			ナンテンハギ	1%	3cm
			オオバノヤエムグラ	+	16cm
			マユミ	+	15cm
			ミズキ	+	5cm

■備考

調査面積は1m²の区画です。
被度は出現した植物が、調査した区画の中を占める割合を%で示したものです。
+は割合が1%未満の場合です。

光が当たってサクラソウの成長に都合が良くなるためです。ここのサクラソウ群落の中でサクラソウと他の植物との関わりは、どのようになっているのでしょうか。調査した6月1日にサクラソウは満開の時期を少し過ぎていました。サクラソウは草丈が16cmで、もっと草丈の高い植物もありますがサクラソウの上をほとんど覆っていませんでした。出現植物の中にサクラソウの日当たりを妨げた



田畑の境界の崖地に生育するサクラソウ群落

植物が見当たらないことから、サクラソウが開花するまでの生育期間は陽光がよく当たっていたということがわかりました。

サクラソウが開花した後はどうなるのでしょうか。出現植物の中でサクラソウ・トボシガラ・ウマノアシガタ・コシロネは初夏には枯れてしまいましたが、他は夏季に繁茂する植物です。その多くは双子葉高茎多年草と呼ばれる

草丈の高い大型植物なので、夏季には双子葉高茎多年草の優占する群落に変化する筈です。その結果、サクラソウ群落は夏季になると田島ヶ原はオギの優占する群落に、ここは



株の移植で増えたとと思われるサクラソウ群落

双子葉高茎多年草の優占する群落に変化して、夏季には両方の群落は全く異なったものになることがわかりました。

ところで、群落は異なってもオギと双子葉高茎多年草は草丈が高くなるので、その下の地表が暗くなって生育できる植物が減り、サクラソウの競争植物が少なくなることでは同じ効果があります。



しかし、調査したサクラソウ結実期のサクラソウ群落では出現植物の多くが、

地上と地下で激しい生存競争を行う多年草と幼木なので、これらの植物はサクラソウの繁殖を妨げるので、サクラソウはこれらの植物との生存競争に負けてしまいます。そのために、調査したサクラソウ群落は、やがて消滅してしまうことが予測されました。

地元の方によれば、ここのサクラソウ群落は見学者などに持ち去られるようになって、株を植えて繁殖させる取り組みをしているとのことでした。今回、ここのサクラソウ群落の構造を調べたところ、調べたサクラソウ群落は最近できた新しいもので、一緒に生育している植物の多くがサクラソウの繁殖を妨げていることがわかりました。このことは、サクラソウを繁殖させようとして、サクラソウの株をサクラソウの繁殖を妨げる植物の間に植えてしまったことが原因になっているのでしょうか。このようなサクラソウ群落の消滅を防ぐには、サクラソウの競争植物を除去するなど、適度に人手を掛けて管理をする必要があります。

貴重なサクラソウの自生地で、このようなことになってしまったのは、自生地からサクラソウを持ち去る人がいたからです。自然を守り大切にすることをみんなが持たなければと、改めて思いました。

(さいたま市文化財調査専門員)

